

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■より高い存在価値をもつ学会を目指して	1
■幹事長を退任するにあたって	5
■事務局を引き受けるにあたって	7
■DGD便り	9
■平成8年度 日本発生生物学会 運営委員会議事録	11
■国際発生生物学会について	14
■公益信託について	16
■平成8年度 東レ科学技術賞および東レ科学技術 研究助成の候補者推薦要領の概要について	18
■本会関係助成金一覧	19
■会員異動	21
■賛助会員	25
■賛助会員入会、広告掲載のお願い	26

NO. 83

MAY 1996

日本発生生物学会

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1

東大・院・総合・生命環境系(生物)

会 長：〒 300 茨城県土浦市湖北 2 丁目 5-10
岡田益吉 (Tel: 0298-22-7348, Fax 兼用)
e-mail: flyokada @ ZoBell. biol. tsukuba. ac. jp)

DGD 編集主幹：〒 226 横浜市緑区長津田町 4259
東京工業大学生命理工学部
星 元紀 (Tel: 045-924-5720)
(Fax: 045-924-5777)
(e-mail: dgdhoshi @ bio. titech. ac. jp)

事 務 局：〒 153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境系
Tel: 03-5454-6632 (浅島研究室)
Fax: 03-3485-2904 (生命系事務室)
(この場合は必ず浅島の名前を入れる)
03-5454-4330 (研究室)
e-mail: cmasa @ komaba. ecc. u-tokyo. ac. jp
(幹事長) 浅島 誠 (Tel: 03-5454-6632(直通))
e-mail: cmasa @ komaba. ecc. u-tokyo. ac. jp
(庶務幹事) 松田良一 (Tel: 03-5454-6637(直通))
e-mail: cmatuda @ hongo. ecc. u-tokyo. ac. jp
(会計幹事) 福井彰雅 (Tel: 03-5454-4397(直通))

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C21
財団法人 学会事務センター
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)

日本発生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物 (DGD, インフォメーション・サーキュラーなど) の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年 3 回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

宛先：〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東大・院・総合・生命環境系(生物)
日本発生物学会事務局
Fax: 03-3485-2904 (担当 浅島)

より高い存在価値をもつ学会を目指して

会長 岡田 益吉

私の任期もあと9カ月となりました。前会長から引き継いだDGD出版のBlackwell社への委託は、日本発生物学会の歴史を刻む一里塚の中でも、明らかに大きなものの一つであると思います。この重要なイベントの立会人として、順調な滑り出しを見届けることが出来、今は一応ほっとしております。一つには歴代会長を悩ませてきた学会の経済問題が愁眉を開いたこと、そしてもう一つはDGDが国際誌としての地歩を少しづつではありますが着実に固めつつあることです。これはひとえに会員の皆様が優れた論文を投稿して下さっていることによりますが、それとともに外国からも良い論文が集まるようになったことが貢献しております。このことについては編集主幹が論文の review を引き受けてくれる外国の研究者を出来るだけ多く確保するなど、編集組織の国際化に努力して下さっているおかげであり、また国際的に活躍しておられる会員の皆様が、おりに触れて外国の仲間にDGDはよい雑誌であるという意識を広めて下さっているおかげでもあろうと思います。心から感謝いたします。

しかし云うまでもなく、目標はさらに高いところにおかなければなりません。我々が編集の主導権を持つDGDを国際的に一流の専門誌に育て上げることは、わが国の研究者による優れた研究を、より多く、さらに容易に世界に向けて発信するのに役立つと信じます、そのために会員の皆様のなご協力をお願いします。

ここで、私の考えているDGDの性格について一言させていただきたいと思います。最近の発生学の流れは、発生現象を遺伝子の働きの表れとしてとらえる方向に向かっております。実際、多くの会員が発生に関わる遺伝子や、その調節機構を研究しておられることは、大会における発表論文から察することが出来ますし、DGDの投稿論文も直接遺伝子を扱うものが増加する傾向にあるように思われます。しかしながら、私はDGDに掲載されるのが遺伝子、分子についてのみ述べる論文だけになってしまうことは避けたいと思っております。一つには雑誌の特徴を失いたくないと考えるからですが、もう一つの理由は雑誌の質を落とすたくないからであります。遺伝子の働きの結果ではあっても、発生現象は生物の

営みであり、発生学は基本的には形態学であります。塩基配列や転写因子、DNA結合蛋白質や酵素分子などの背景に生物の姿が浮き上がって見える、生き生きとした論文が続々と投稿されるように念じております。他方において、形態学的手法を採用した研究で、遺伝子や分子について一言も触れていなくても、その発生現象を遺伝子の働きの表れとして理解する研究を誘発するものであって欲しいと夢見ている次第です。

さて、学会の使命は学術専門誌の発行だけではありません。会員の研究活動が活発になるように手助けをすることも重要な業務でありましょう。大会の役割は無論大きく、大会が貴重な情報交換の場となり得るように、常に心を配らなければなりません。幸いにして、開催を引き受けて下さる大学が、会員にとって実質的に役に立つ大会になるように、それぞれ工夫を凝らして下さっていて心強い限りです。年一回しか開かれない大会ですが、単なる息抜きやお祭りではなく、会員各位が国際学会に出席するのに似た意気込みと期待をもって参加できるようになることを、これまた夢見しております。

会員の科学研究費補助金を中心とする研究費を出来るだけ取得し易くするよう情報を集めたり、働きかけたりすることも学会の一つの役割でありましょう。そのためには発生生物学会から学術会議の動物学研究連絡委員会に出席している代表の役割は大切であると思っております。学術会議報告というのが総会でされています。ここでは、時として重要な情報もたらされますので、出来るだけ総会にも出席して、情報を得るようにして頂きたいと思っております。しかし、現在の総会出席率を見ると、それ以外の道も考えなくてはならないでしょう。会員の中には重点領域研究など、科学研究費補助金の審査員の経験者も多いことでもありますので、具体的な審査の経過は非公開で、他に漏らすことは出来ませんが、例えばどの種目に申請するのが最も良いかの判断に役立つような一般的な情報を含めて、サーキュラーなどを通して会員に伝えることが出来る工夫はないかと思っております。いずれにしても現在の日本では、特に大学などに籍を置いている研究者は科学研究費補助金を取得することが、ただ単に研究費の問題に留まらず、その人の研究活動を測る尺度にまで使われることがあります。反対に、多くの会員が科研費を、出来たら高額のものを取得できると、学会としても活性が高いと判定される場合もあると思っております。これが学会活動の一つに、科研費など研究費取得のための情報収集を挙げた理由の一つです。

皆様にお馴染みの「一般研究 (A) (B) (C)」が無くなり「基盤研究 (A) (B) (C)」と「萌芽的研究」が創設される予定で、しかもこれは今年度から実施すると伺っております。

す（一般研究に申請しても、基盤研究として交付される）。わが国全体の科学研究に対する補助金などの援助体制が充実されつつあり、特に文部省以外の省庁が乗り出してきている現状を反映して、文部省の科学研究費補助金の制度も、引き続き改善が模索されているようです。学会としても、現在以上に情報の提供に勉めなければいけないと思っております。どの様にするのが、最も会員の要望に応えられるか。ご意見や、ご希望をお寄せ下さい。

さて、研究者の国際的つながりの媒体となることも学会のもう一つの役割ではないかと思っております。国際発生生物学会（International Society of Developmental Biologists [ISDB]）と云う学会があり、以前は個人で参加する形となっておりましたが、前会長 Gurdon の時代から改革が模索されはじめました。そして、1993年ウィーンで開かれた国際会議の評議会および総会で、国際発生生物学会の傘下に各国の発生生物学会が入るという、いわゆる umbrella 方式で運営することが提案され、承認されました。この制度によれば、たとえば日本発生生物学会が、その傘下に入ることを決定すれば、その会員はそのまま国際発生生物学会の会員となることとなります。ウィーンでの決定以後約2年は過渡期として、新制度への移行の準備が行われておりましたが、いよいよ成文化された規約を次の大会（1997年、米国ユタで開催予定）で行われる総会で承認して正式に発足する運びになっております。

このやりかたは、これまで個人的に国際的活躍してきた研究者にとっては別段必要ないことかも知れませんが、一層多くの方が国際的に活躍が出来るきっかけを作る意味で結構なことだと思います。そこで、運営委員会で審議していただき、日本発生生物学会もこの傘下に入ることに決定いたしました。無論、正式には次回総会での決定を待たなければなりませんので、会員の皆様のご理解をお願いいたします。国際発生生物学会については、この号のサーキュラーの中で別にまとめて頂くことになっておりますので、そちらもご覧下さい。

国際発生生物学会の新しい規約の中に、Mechanism of Development (MOD) が学会の機関誌 (The Official Journal of the ISDB) となることが決められており、その雑誌を発行している Elsevier より、以前から国際発生生物学会の会員になっていた方に、一年 US\$75で MOD が購読できること、個人会員の会費 US\$25 の納入を Elsevier が仲介する（従って、合計 US\$100 で MOD が購読できる）というお知らせが行っていることと思います。

US\$75 という割引価格は個人会員にのみ適用されるもので、日本発発生物学会を通して会員となっている方には適用されません。従って、MOD を割引価格で購読するためには、日本発発生物学会会員でありながら、個人会員にもならないといけないという矛盾は解決されておりませんので、以前から会員であった方は各自ご判断のうえ対応して下さい、この場を借りてお願いいたします。無論、日本発発生物学会として会費の二重払いにならないように、国際発発生物学会の個人会員となっている日本発発生物学会の会員は学会として支払う国際発発生物学会の年会費算出の人数から除くなどしなければいけないと考えております。

事務局から、会長の挨拶、活動方針などを書くようにというご要望を頂きまして、書き始めたところ、日本発発生物学会という学会はどの様なものであって欲しいかという、私の日頃の思いを書き並べただけになってしまいました。最後は、事務的なご連絡のようなことも申し上げて、とても会長の抱負などとは呼べない代物であります。けれども、私の残り少ない任期の中で、会員にとって役に立つ学会にするよう、最近少し固くなった様に感じる頭を絞るつもりであります。当然のことながら、会員のご意見、ご希望を頂けると、考えるのも楽になります。どうぞ、若い柔軟な考えをお聞かせ下さい。

幹事長を退任するにあたって

前幹事長 長 濱 嘉 孝

平成5年の夏に東京大学の塩川光一郎先生から引き継いで以来平成7年末までの二年半、基礎生物学研究所・生殖研究部門において日本発生生物学会の事務局をお引き受けしました。当初は前事務局の田代・浅野両先生（東京大学）にいろいろとお教えいただきながらの不安な出発でしたが、会員の皆様のご協力により大過なく役目を果たすことができましたこと、感謝申し上げます。

この間、私共が会長をお手伝いして行ったことの一つは本学会の財政難を少しでも打開することでした。言うまでもなく、発生生物学は生物学分野において近年もっとも発展をとげている学問領域の一つで、それを反映して日本発生生物学会の会員数もこの数年急速に増加しております。新入会員数を例にとりましても、1993年度からは年平均約100名ずつの増加がみられます。もっとも毎年何人かの退会者がおりますので新入会員の増加がそのまま会員数の増加にはつながりません。しかし、このような日本における活発な発生生物学研究とは裏腹に、この数年における本学会の財政は困窮をきわめておりました。その主な理由の一つは、DGD刊行経費が文部省からの刊行補助金を加えても、学会費の大半を占めてしまうことでした。

DGDは日本発生生物学会の機関誌であるばかりでなく、学会が編集方針を決定できるユニークな発生生物学分野の国際誌として知られ、国内外における当該研究分野の発展に大きな役割を果たしてきました。しかし、その刊行のための財源の多くを学会費に依存せざるを得ないことが本学会の深刻な財政難の主因となったことは前述したとおりであり、この危機を打開するために代々の会長、事務局などが中心となりいろいろな方策が講じられました。DGD基金もこのような目的で設けられたものの一つですが、これには多くの会員から寄付が寄せられ、DGDについての関心の高さが示されました。このような努力にもかかわらず財政的問題は最近になりさらに深刻化し、何か抜本的な打開策が必要となってまいりました。まず、DGDの在り方について、江口会長が全会員にアンケートで意見を求めました結果、250名ほどの会員から意見回答が寄せられました。回答を寄せられた会員の多数から、国際学術雑誌を学会誌として刊行することの問題が指摘されるとともに、本誌を向上させるには適当な出版社を通じて刊行する方が良いとの意見が出されました。これらの結果を踏まえて運営委員会を中心にして十分な協議がなされ、最終的には、1994年の仙台における第27回総会においてDGDの出版業務を1995年1月から

Blackwell社へ委ねることが決定されたわけです。今、その時の議論をふりかえってみますと、このような方策が予定どおりの出版費の節減をもたらすのか、また、DGDに関してこれまでどおり学会が編集権をもつことができるのかということなど、いろいろな問題がありました。特に、後者につきましては運営委員会などでも度々取り上げられ議論されましたので、Blackwell社との契約の際に江口会長がもっとも配慮された点でした。会員へのアンケートからBlackwell社との契約に至る諸々の過程で示された江口会長のリーダーシップにあらためて敬意を表します。

本学会では、会長の交替に伴い幹事長や幹事も交替するのが慣例になっているのですが、Blackwell社への移行を可能な限りスムーズに進行させるべく、1995年度も私共が事務局を担当させていただきました。この間、江口、岡田両会長、星編集主幹、嶋田編集幹事らと相談しながら、移行のためのBlackwell社との交渉を重ねることにより、なんとか順調にその目的を達成することができたのではないかと考えています。先方のRobertson氏も非常に好意的で、出版費の節減もほぼ予定どおりとなり、1995年度には幾分かの余剰金が得られることとなりました。この件に関しましては、本年1月に開催されました運営委員会でご報告致しましたが、最終的には1995年度の収支決算として会計監査を受けた後、5月の京都での総会でご承認いただくことになると思います。また、余剰金の用途については今後会員の皆様のご意見をお訊きしながら検討することになると思いますが、DGDのカラーページの一部を学会が負担するというようなことも一案ではないでしょうか。Blackwell社の協力のもとDGDが益々発展することを切に願っています。

先日、広島に出向き、前編集幹事の嶋田拓先生と共に大学印刷・増田社長を訪ね、江口前会長及び岡田会長の名前で学会からの感謝状をお届けしました。長期にわたりDGDの出版に関していろいろとご協力いただいた大学印刷の皆様にごここであらためて深く感謝申し上げます。

もっといろいろなことでお役に立ちたいと思い幹事長をお引き受けしたわけですが、自らの力不足のためその多くを達成できずに任を終えること、誠に申し訳けなく思っております。最後になりましたが、お手伝いいただいた基礎生物学研究所・生殖研究部門の皆様、特に会計幹事、庶務幹事を務めて下さいました吉国通庸、田中実の両氏、種々事務をお願いした野田さんに心より感謝申し上げます。さらに、学会センターの唐沢真紀子さん、唐沢静子さんにも大変お世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。日本発生物学会もやがて創立30周年を迎えます。岡田会長、浅島幹事長のもと、本学会が益々発展されることを祈念して退任の挨拶とさせていただきます。

事務局を引き受けるにあたって

幹事長 浅 島 誠

このたび長濱先生の後をついで、日本発生生物学会の事務局を引き受けることになりました。この件については岡田益吉会長を通して、一年前に事務局をという話があったのですが、私の方で公私とも多忙であったため、長濱先生に御無理をお願いして一年延長して今年からバトンタッチとなったわけです。その間、岡田会長や長濱幹事長、星編集主幹などの御努力により、D. G. D. の編集業務が Blackwell 社との間でようやく軌道にのり、学会運営も少し好転し、安定化してきたように思われます。ここに至るまで前会長の江口吾朗先生の英断と岡田現会長、星編集主幹、長濱幹事長を中心として事務局の一体化した大変な御尽力によってはじめて実現化したわけです。それゆえ D. G. D. の発行を Blackwell 社と提携し、学会が主体性をもって編集するという方針のもとに D. G. D. の国際化と学会運営の正常化が、昨年あたりから少しずつ良い方向となっています。これによって学会が長年かかえてきた年毎の赤字による運営不能という事態は一応、回避されたわけです。このようなある意味で学会運営の安定化の見通しが立った中で、事務局を実際に引き受けることになり、前任者の長濱先生には感謝しています。しかしながらいざ事務局を引き受けると事務量の多さとまだまだ安定化した運営と活性化のためには、解決しなければならない問題も山積みしています。学会の事務局は何よりも会長の御意見と会員の皆さん方の御意見をスムーズに接着させて交換でき、風通しの良いものにすることと、運営委員会等で議論された学会の方針を会員に伝え、発展させていくこと、そして毎年行われる年次の学会での大会本部との連絡を密にすることにあるかと思えます。一方で現在の発生生物学会の会員は年々、増加の一途をたどり、現在では1200余名となっており、しかも学問分野も理学部、医学部、薬学部、水産学部、教育学部、工学部、園芸学部、農学部、教養学部など（その他の学部、関係分野もありますが）、非常に多分野で、多岐にわたっています。また会員も大学のみならず企業の研究所、教育職、民間の総合職など、いろいろな職種の人が取り組んでいます。これは現在の生命科学の分野における発生生物学そのものの発展と相まっていると思えます。事実、発生生物学の分野が科研費でも複合領域の基礎生物学

に分類されていることにもまさに符合しています。

また事務局にはいろいろな情報が寄せられています。それらは日本学術会議、民間の研究補助金や国内外の派遣、他学会等のシンポジウムの開催案内、協賛の希望などいろいろあります。サーキュラーが年3回の発刊を考えると、必ずしも迅速な情報が会員の方に届くようにはなっていませんが、これらも何らかの方策（大会時の総会などで）を考えてみたいと思っています。本会関係の各種研究助成金等の一覧を別紙に添付します。尚、学会の推薦が必要となる場合はこの締切りの1ヶ月前に学会内で選考のため締切りますのでご注意ください。

私共事務局は岡田益吉会長のもと、幹事長（浅島）の他に庶務に松田良一、会計に福井彰雅の両氏で、可能な限り、努力していくつもりですので、会員の皆さん方の御協力をお願いする次第です。もし連絡等がありましたら Fax か e-mail、手紙などでお知らせ下さい。また、会員の皆さん方に御意見や連絡などがありましたら、「サーキュラー」を通してお知らせしたいと思いますので、有効に活用してください。

DGD 便り

“表紙の写真がカラーになりました”

編集主幹 星 元 紀

本誌は、31巻（1989年）より現在の版型となり、同時に表紙に写真を挿入するようになりました。このスタイルを7年間続けて参りましたが、すでにお気付きのように、38巻1号より表紙の写真がカラー印刷に変わりました。これは、本誌が一段と充実することを願った措置ですが、日本発生生物学会とBlackwell Sci.社とが経費を折半することにより実現したものです。本誌のイメージカラーとなっている濃黄色の上にカラー写真をのせるに当たって、デザイン上の指示をしたのですが、残念ながら第1号はこちらの指示通りには出来ていませんでした。この点、Blackwell Sci.社に、しつこく言いましたので、そろそろお手許に届く2号では改善されているはずですが。

現在のところ、カラー図版の印刷経費はほぼ全面的に著者の負担となっておりますが、著者の負担率を多少とも下げるよう努力中です。いずれは無料となることを願っております。また、製作・発送をBlackwell Sci.社が担当するようになってから、写真印刷の質が低下したというお叱りを受けますが、この点につきましても同社に厳重な抗議を申し入れ、近々改善される見通しとなりました。著者あるいは読者として、何であれご不満がありましたら、同社ならびに当編集部にご連絡下さい。

間もなく第4号の入稿を終えますが、38巻は総計720頁を印刷する予定であります。幸い、国外や本学会員以外からの投稿も増えてきましたが、会員諸氏からの投稿が頼りであることは言うまでもありません。良い論文をお送り下さいますよう、重ねてお願いいたします。

投稿に際しましては、次の4点につきご協力をお願いいたします。

1. 投稿規程を遵守してください。原稿作成前にDGD最新号巻末の投稿規程を良く読んで下さい。

2. 連絡先の氏名、住所などは英文、邦文の両方で記載してください。電話、ファックス、e-mailなども、記入してください。著者との迅速、正確な連絡のために可能な限りe-mailやファックスを利用しておりますが、著者への連絡は郵便でなければ困るという方は、その旨ご連絡下さい。
3. 投稿後のご連絡に際しては、原稿受領通知に記載されている原稿の登録番号（例、MS95098）を明記してください。
4. 改訂稿に添付していただく Reviewer への回答は、英文のコメントについては英文でお書き下さい。国外の方に Reviewer をお願いすることも多々あります。

Motonori HOSHI

Editor-in-Chief, Development Growth & Differentiation

Department of Life Science, Tokyo Institute of Technology

4259 Nagatsuta, Yokohama 226, Japan

Voice: +81-45-924-5720 Fax: +81-45-924-5777

e-mail address: dgdhoshi @ bio. titech. ac. jp

平成8年度 日本発生物学会 運営委員会議事録

日 時：平成8年1月16日午後1時～3時20分

場 所：東京大学教養学部 15号館第一会議室

出席者：岡田益吉会長、長濱、井出、黒岩、団、東中川、嶋田、安部、浅島（新幹事長）、星、八杉、松田（新庶務）・福井（新会計）

開会に先立ち、長濱幹事長から事務局交代について説明があり、浅島新幹事長、松田庶務、福井会計が紹介された。

<報告事項>

(1) 庶務報告（長濱 代理）

現会員数		(昨年)
国内一般	902	(886)
学 生	267	(206)
賛 助	7	(7)
外国在住	30	(21)
	<hr/>	<hr/>
	計1206人	(計1120)
DGD寄贈	国内	4
	外国	7

(2) 会計報告（長濱幹事長が代理）

Blackwell社への出版業務移行に伴い、財政が大幅に改善された。今後予算的余裕がかなり生じる見込みであり、それを何にあてるかを検討する必要がある旨、説明があった。

(3) DGD関係（星編集主幹）

総頁数は昨年度600頁が768頁になり順調にのびてきているが、投稿数は98で数年前より減じてきている。採択率は57/98 (58.2%) で、impact factor は1.1であった。査読期間の短縮を目指している。採択→publishの期間を縮めたい。referee の25%は外国人であった。海外からの投稿も順調に増えている。

(4) 本年度大会の準備状況（佐藤大会委員長より）

会場が最大400名の収容能力しかない。懇親会については大会要旨集をみていただきたい。

(5) 次年度大会について（岡田）

筑波大学で平成9年5月29日～31日を予定。大会委員長：平林民雄先生。

<審議事項>

(1) 会計および庶務関係

別紙参照 DGDの英文校閲費30万円の見通し、削除が検討され、承認された。

大会補助費を25から30万円に引き上げることが承認された。

ISDBへの送付金が会員100名以上の団体は\$300+会員数×\$1.00=\$1400程度になる通知が来た旨紹介され、審議の上、予算組み込みが承認された。

会計監査員の検討があり、西駕氏（都立大）、久保田氏（京大）が提案され、承認された。

選挙関係

今年は選挙の年であるので選管委員の検討があり、東中川（委員長）、浜口（東工大）、中島（慶大）が提案され、承認された。

DGDに海外の発生生物学系学会のinformationをのせることが承認された。

日本比較内分泌学会（川島 誠一郎会長）より、来年11月に開かれる国際会議の後援依頼があり、承認された。

ISDB関係

ISDBより竹市氏へ連絡があったISDB会則改正案が紹介され、検討された。これに伴い、アジア選出の副会長として自動的に日本発生生物学会から1名を出すことになり、本会の会則変更の必要性が生じた。ISDBのsociety memberとして傘下に入るメリットについて議論があった。

会計関係の審議の続き

会計上からみた今後の予算の使途について

1. 会費値下げ
2. DGDカラーページ印刷代の一部学会負担
3. DGD別刷50部程度の一部学会負担

などの可能性が議論され、2. 3. 案について予算枠内で試行してみることで承認された。

(2) 学術会議（岡田会長）

動物研連の下部組織として発生生物学の専門研究連絡委員会を作る件が検討されている。研連の委員枠を使うことになるので、当面はpendingのままにすることで承認された。

(3) 学術用語関係（浅島委員）

関連諸学会の協力も得て、順調に作業が進んでいる。1998年3月を目途に東大出版会から刊行する予定である。

(4) その他

本会のサーキュラーを「生物科学ニュース」に掲載して発行した方が毎月号になり情報量が多くなり、また事務局の負担も少なくなるのではないかなどについて検討してみてもどうかと話題提供があり、検討課題にすることで承認された。

次回は京都大会の前日（5月22日）に開くことで承認された。

国際発生生物学会 (International Society of Developmental Biologists、[ISDB]) について

会長 岡田 益吉

会の規約 (Statutes および By-Laws) および Business Manager (Dr. Bluemink) の説明から、日本発生生物学会および、その会員に関係深いと思うことを簡単にまとめました。

- ・ ISDB の目的：発生学研究の振興のために、様々な事業を行う。例えば、Congress, Symposium 等の開催、協賛；論文発表の便宜の供与；国際協力研究の便宜の供与；研究資料・材料・スライドなどの収集の振興；等々。
- ・ 会員は次の3種類：1) Society Members, 2) Personal Members, 3) Supporting Members. (規約には特に規定していませんが、Business Manager の Dr. John Bluemink によれば、Society Member の中に、Personal Member である人と、Personal Member でない人、の2つのカテゴリーがあり得るということです。しかし、私の知る限りでは、これは規約に照らして一寸矛盾があるように見えます)
- ・ 各 Society Member からは評議会 (Board) に代表を1人送ることが出来る。
- ・ President, Secretary-Treasurer, International Secretary は Board が投票で選出する。3名の Vice-President をアメリカ、ヨーロッパ、アジアの発生生物学会から各1人ずつ選出する。当面は American Society of Developmental Biologists, European Society of Developmental Biologists, Japanese Society of Developmental Biologists, 各々から1名ずつの Vice-President を選出する。(Business Manager については規約には明記されていないけれども、必要があって設けているのでしよう)
- ・ 年会費、Society Member: 会員数100名までは1人あたり US\$ 3。100名を越える会員1人あたり US\$ 1 (日本発生生物学会の場合年間約 US\$1,200 を支払うことになります)。Personal Member (National Society の member でない個人): 1人あたり US\$25。Supporting Member: US\$100、または一時金 US\$1000。
- ・ Mechanism of Development (MOD) を ISDB の Official Journal とする。これは ISDB Elsevier Biomedical Press との間の正式契約による (規約の原案が出来た段階で、Elsevier があえ

て risk を引き受ける形で、正式発効を待たずに雑誌の編集その他契約により生ずる業務を開始することを了承しているそうです)。

- ・ MOD の編集方針は ISDB の方針と合致させる。
 - ・ MOD の購読は、個人会員に限り、年間 US\$75 の割引価格で購読することが出来る。
 - ・ 規約等には規定されていないが、Business Manager の説明によれば、ISDB は MOD の印刷頁を年間合計16頁を無料で、会員との連絡など、情報を載せるのに使うことが出来る。また、Society Member の学会（日本発生生物学会など）も、直接 Elsevier に原稿を送り、同時に Secretary-Treasurer（現在は Dr. S.W. de Laat）にそのコピーを送ることにより、この頁に News を載せることが出来る。
 - ・ このように国際発生生物学会関係のお知らせなどは MOD のなかの ISDB News Section のページにのりますが、MOD を購読していない人のためにはどの様にして News が伝えられるのかははっきりしません。現在それについて問い合わせ中です。それと同時に、もし現在は何も考慮されていないのならば、考慮してくれるよう要望しました。
- ただし、国際発生生物学会の開催に関するお知らせだけは、日本発生生物学会会員の名簿を大会主催者に送って、直接手に入るようにすることが出来るそうです。

公益信託 成茂動物科学振興基金

平成 8 年度 研究助成

1. 助成の対象 基礎的な動物科学の研究。
2. 助成の内容 上記研究に対し、助成金を交付する。
助成金額：約300万円
1件につき100万円以下とする。
助成金は、備品、消耗品、謝礼、国内旅費などのほか、国外旅費にも使用することができる。
3. 応募の方法 所定の研究助成申請用紙に必要事項を記入して、下記事務局に直接申し込む。
申込〆切：平成8年7月19日（金）必着。
申請用紙は、返信用封筒（B5版）を同封の上、下記宛請求する。

公益信託 成茂動物科学振興基金事務局

〒100 東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱信託銀行本店営業部

公益信託推進室

担当 小林・小崎

公益信託 成茂動物科学振興基金

平成7年度助成が下記のように決定しました。

研究者	所属機関	助成金
岡 良隆	東京大学	50万円
西田宏記	東京工業大学	50万円
神崎亮平	筑波大学	50万円
岩本裕之	帝京大学	50万円
奥原康司	理化学研究所	50万円
村山 司	水産庁水産工学研究所	50万円
西川輝昭	名古屋大学	50万円
	7件	350万円

公益信託 團生物科学国際基金

平成8年度助成が下記のように決定しました。

長期共同研究	3名
松波宏明 (日本)	85万円
武田裕彦 (日本)	85万円
Panom K.Sodsuk (タイ)	85万円
短期共同研究2名	
Edward J.K.Patterson (インド)	45万円
Peter P.Fong (米国)	45万円
国際研究集会5万円	
Paulo A.Ferreira (ポルトガル)	20万円
Ri-Cheng Chian (中華人民共和国)	20万円
前野貢 (日本)	20万円
林原毅 (日本)	20万円
吉村健二郎 (日本)	20万円
合計	445万円

平成8年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦要領の概要について（ご依頼）

記

I. 東レ科学技術賞（概要）

1. 候補者の対象……………貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……………2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび資金500万円
3. 候補者推薦件数……………1学協会から2件以内
4. 推薦締切期日……………平成8年10月9日（水）弊会必着

II 東レ科学技術研究助成（概要）

1. 候補者の対象……………貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者
2. 研究助成金……………総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。
3. 候補者推薦件数……………1学協会から2件以内
4. 推薦締切期日……………平成8年10月9日（水）弊会必着

以上

本会関係助成金等一覧

●学会の推薦を必要とする場合には、この締切の1ヶ月前に学会内で選考のため締切りますので御注意下さい。
尚、締切に関しては年により変更がある場合があります。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
持田記念研究助成	(財)持田記念医学・薬学振興財団	42件	6月末	1件100万円	「生命科学・薬物科学・情報科学・生体工学」と医療尾魚用の研究
持田記念留学補助	03-3358-7221 160	10名	6月末	1件50万円	留学期間は1年以上
持田記念学術賞	東京都新宿区四ッ谷1-7	2名	7月末	1名300万円	顕著な功績のある研究を行っている研究者
公益信託・成茂動物科学振興基金	公益信託・成茂動物科学振興基金 03-3212-1211 ext4052 100 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱信託銀行本店営業部法人相談室	約600万円	7月31日必着	1件につき100万円程度まで	基礎的な動物科学の研究
日産学術研究助成(A)(B)	(財)日産科学振興財団 03-3546-5597 104 東京都中央区銀座6-17-2	約10件	8月末	1件1,500万円程度	(A)研究が長期にわたる学際的グループ研究
		約10件	8月末	1件150~300万円程度	(B)独創的な短期間の研究または本格的な研究への調査・準備的研究
		約15件	8月末	1件200万円まで	若手研究者(35歳以下)の萌芽的個人研究
加藤記念研究者育成助成	(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 0427-25-2576 194 町田市旭町3-6-6	3件 1学会より1名	8月中旬	360万円 1件月額10万円 ×1年間	バイオサイエンス分野の基礎研究を対象とする。本年8月31日現在30歳以下の研究者で、職業をもたない(無職である)国内の大学、国公立の研究所等に在籍している者。
上原財団研究助成	(財)上原記念生命科学財団 03-3985-3500 171 東京都豊島区高田3-25-3	50件	9月8日	1件500万円	生命科学、とくに健康の増進、疾病の予防および治療に関する次の分野において、独創的な内容の研究に従事している日本在住の研究者。1) 栄養学2) 薬学一般3) 基礎及び臨床医学4) 社会医学。
島津研究開発助成	(財)島津科学技術振興財団 075-823-3240 604	総額2,200万円	9月30日必着	1件100~250万円	原則として45才未満の日本人研究者。科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とする。
島津海外研修研究援助	京都市中京区西ノ京下合町11番地	約26件 総額約390万円	年4回 4月30日 7月31日 10月31日 翌年1月31日	1件15万円	科学技術に関する海外の研究集會に研究発表のために出席する研究者および海外留学生を対象とする。原則として40才未満の日本人研究者で、所属機関の責任者の承諾を得ている者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 0473-50-6103 279 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後	10月8日必着	金メダル1件500万円	学術上の業績顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明により効果が大いなもの、技術上の重要問題を解決し貢献が大いなもの。
東レ科学技術助成		総額1億3千万円	10月8日必着	10件程度 1件につき3,000万円程度まで	科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究成果が科学技術の進歩発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を行っている若手研究者。

賞名	授賞団体	授賞件数	提出締切	賞金額	受賞資格
内藤記念科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 03-3813-3005 113 東京都文京区本郷 3-42-6 NKDビル8F	1件	11月20日	金メダル1 件300万円	人類の健康に関する自然科学の基礎研究、とくに健康増進、疾病の治療と予防に功績をあげた研究者。
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 03-3273-2565 104 東京都中央区八重洲 2-6-20	12件	11月30日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究分野（脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域）において、独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独、または共同研究も可。
塚原仲見記念賞		2件以内	11月30日	1件100万円	生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者。
三菱財団自然科学研究助成	(財)三菱財団 03-3214-5754 100 東京都千代田区丸の内 2-5-2 三菱ビル内	30件程度	3月2日	1件 2,000万円以内 総額 約3億円	自然科学の基礎分野における独創的、かつ先駆的研究に対し助成。
山田科学振興財団研究援助	(財)山田科学振興財団 06-757-3311 ext428 544 大阪市生野区巽西 1-8-1 ロート製薬(株)内	総額 1億2千万 円	3月31日	1件につき 1,000万円以内	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究、とくに学際的色彩を持つ研究に従事する個人またはグループに対し助成。10件以内。
笹川科学研究奨励助成	日本科学協会 03-3502-1931 105 東京都港区虎ノ門1- 15-16 イジカンビル	60～100件	3月16日	1件100万円 程度	人文・社会および自然科学（医学を除く）または境界領域に関して、萌芽性、独創性または新規性の強い内容で、1年以内で成果が期待される研究に助成。継続研究も可。35歳以下。
林女性自然科学者研究助成	公益信託林女性自然科学者研究助成基金 03-3277-7497 103 東京都中央区日本橋 室町2-1-1 三井信託銀行内	10数件	3月31日	総額 2,000 万円（最高 500万円）	化学一般並びに化学に関連ある物理学・生物学の分野で基礎研究に従事する女性研究者およびグループ。
		数件	3月31日 9月30日	総額 300万円	同上研究者の研究発表または共同研究のための海外渡航。
		総計 5～6名	3月31日	2年間、 年額200万 円(ポスト)、 100万円(ブレ ドク)	同上研究者で常勤的職についていない博士号を有する者（ポストドク）または博士号をめざす者（ブレードク）
井上 学術賞	(財)井上科学振興財団 03-3477-2738 150 東京都渋谷区猿楽町 11-20	5件以内	9月20日	1件200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績を挙げた者（ただし締切日現在満50才未満）。
猿橋賞	女性科学者に明るい 未来をの会 03-3330-2455 166 東京都杉並区高円寺 北4-29-2-217	1件	11月末日	30万円	自然科学の分野で顕著な業績をおさめた女性科学者（ただし推薦締切日での時点で50歳未満）。

会 員 異 動

<新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
田辺 力	徳島県立博物館	〒770 徳島市八万町向寺山	①系統分類、地理的変異 ②ヤスデ
古久保(徳永)克男	筑波大学生物科学系	〒305 つくば市天王台 1-1-1	①脳の発達と高次機能の遺伝的基礎 ②Drosophila melanogaster
浅野 雅秀	東京大学医科学研究所 実験動物研究施設	〒108 港区白金台4-6-1	①哺乳類の初期発生 ②マウス
木本 安彦	大阪大学医学部腫瘍外科	〒565 吹田市山田丘2-2	①腫瘍免疫、細胞分化 ②
浜野 光市	(社)家畜改良事業団 家畜改良技術研究所	〒371-01 前橋市金丸町316	①生殖細胞の発生 ②哺乳動物(反雑動物)の生殖細胞(精子)
福田 雅一	愛知教育大学	〒448 刈谷市井ヶ谷町 広沢1	①コンドロイオン硫酸の発生における役割 ②ニワトリ
武内 恒成	東京都老人総合研究所 実験生物学部	〒173 板橋区柴町35-2	①細胞間接着 ②
(学)長尾智子	筑波大学生物科学系	〒305 つくば市天王台 1-1-1	①脳における神経発生 ②Drosophila melanogaster
(学)中島智恵	東京大学医科学研究所 実験動物研究施設	〒108 港区白金台4-6-1	①生殖細胞の分化・増殖 ②マウス
CABADA Marcelli	Area Biologia, Fac. of Biochemistry, Univ. of Rosario	Suipacha 531-2000 Rosario, R. ARGENTINA	①Amphibian reproduction ②
畑田 出穂	国立循環器病センター 研究所	〒565	①ゲノミックインプリンティング ②マウス
一條 裕之	筑波大学基礎医学系	〒305 つくば市天王台 1-1-1	①神経回路網形成の特異性 ②
藤沢 淳子	国立精神神経センター 遺伝子工学部	〒187 小平市小川東町 4-1-1	①発生・分化・形態形成 ②筋肉・筋芽細胞など、マウス
高山絵理子	生命誌研究館	〒569 高槻市柴町1-1	①鱗翅目昆虫の翅のカラーパターンの形成機構 ②モンシロチョウ
巖佐 庸	九州大学医学部生物学	〒812-81 福岡市東区箱崎 6-10-1	①数理生物学 ②
(学)原 健二	東北大. 理. 発生	〒980-77 仙台市青葉区青葉	①四肢の形態形成 ②ニワトリ
(学)吉田徳之	北海道大学大学院理学 研究科生物科学専攻	〒060 札幌市北区北10西8	①動物卵成熟・受精の分子機構 ②魚類・両生類
(学)近藤朋子	北海道大学理学部生物 科学科	〒060 札幌市北区北10西8	①動物卵成熟・受精の分子機構 ②魚類・両生類

(伊)藤今日子	東京大学農学部獣医解剖学教室	〒113	文京区弥生1-1-1	①精子発生とアポトーシス ②マウスなど
岡 由美子	住友電気工業(株)バイオメディカル研究部	〒244	横浜市栄区田谷町1	①高等生物における形態形成のメカニズムについて ②
宮本 憲優	エーザイ(株)筑波研究所探索バイオロジーユニット1	〒300-26	つくば市東光台5-1-3	①脊椎動物頭部形態形成におけるホメオボックス遺伝子の機能解析 ②マウス
中藤 博志	東京都立大学理学部生物	〒192-03	八王子市南大沢1-1	①多細胞生物における細胞分裂の調節機構 ②キイロショウジョウバエ(<i>Drosophila melanogaster</i>)、カイコ(<i>Bombyx mori</i>)
一色 孝子	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所行動制御部門	〒444	岡崎市明大寺町字西郷中38	①ショウジョウバエの筋肉及び神経分化 ②ショウジョウバエ、 <i>Drosophila melanogaster</i>
穴戸恵美子	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所	〒444	岡崎市明大寺町字西郷中38	①発生生物学 ②キイロショウジョウバエ(<i>Drosophila melanogaster</i>)
立井 一明	基礎生物学研究所	〒444	岡崎市明大寺町字西郷中38	①ショウジョウバエの分子神経発生生物学 ②ショウジョウバエ
田中 宏光	大阪大学微生物病研究所動物実験学部門	〒565	吹田市山田丘3-1	①精細胞の分化増殖 ②マウス、精巣
国吉 久人	新技術事業団 山元行動進化プロジェクト	〒194	町田市南大谷11三菱化学生命研究所内	①キイロショウジョウバエの配偶行動、突然変異体の解析 ②キイロショウジョウバエ、 <i>Drosophila melanogaster</i>
澁谷 浩司	北海道大学薬学部生体機能化学講座	〒060	札幌市北区北12条西6	①細胞内シグナル伝達機能 ②培養細胞
(伊)白土明子	金沢大学大学院自然科学研究科	〒920	金沢市室町13-1 金沢大薬・生物薬品化学教室	①哺乳動物の精子形成過程における精子形成細胞の分化と死 ②ラット・マウス
(伊)安田陽子	発達障害研究所	〒480-03	春日井市神屋町713-8 愛知県コロニー	①神経発生における細胞接着分子の役割 ②ラット
(伊)渡辺 剛	筑波大学生物科学系D408	〒305	つくば市天王台1-1-1	①ニワトリ骨格筋トロポニンTアイソフォームの発現制御機構の解明 ②
(伊)尾池雄一	熊本大学医学部遺伝発生研究施設発生遺伝部門	〒862	熊本市九品寺4-24-1	①マウスの初期発生。特に心筋の発生、心臓の形態形成 ②マウス

(学)小池 亨	東京都立大学理学研究 科生物学専攻	〒192-03 八王子市南大沢 1-1	①ニワトリ消化管上皮細胞の分 化に関する研究 ②ニワトリ (白色レグホン)
(学)佐藤美子	東京都立大学理学部生 物学科発生プログラム 研究室	〒192-03 八王子市南大沢 1-1	①マボヤのホメオボックス遺伝 子の解明 ②マボヤ
(学)石井泰雄	東京都立大学理学部生 物学科	〒192-03 八王子市南大沢 1-1	①ニワトリ消化管上皮の部域化 に関わる転写調節因子の機能 及び発現制御機構の解析 ②ニワトリ
(学)田畑秀典	東京都立大学理学部生 物学科発生プログラム 研究室	〒192-03 八王子市南大沢 1-1	①ニワトリ胚消化管上皮細胞の 分化制御機構 ②ニワトリ
(学)日比野拓	東京工業大学生命理工 学部生命理学科分子発 生学講座	〒226 横浜市緑区長津田 4259	①不等卵割のメカニズム ②マボヤ
(学)杉山清佳	東北大学加齢医学研究 所分子神経研究分野	〒980 仙台市青葉区星陵町 4-1	①ニワトリの中脳視蓋の形態形 成機構の解析 ②chick
(学)津田 学	東京都立大学理学部生 物	〒192-03 八王子市南大沢 1-1	①多細胞生物における細胞分割 の調節機構 ②キイロショウジョウバエ、 <i>Drosophila melanogaster</i>
(学)亦勝美穂	総合研究大学院大学遺 伝学専攻国立遺伝研究 所	〒411 三島市谷田1111	①ショウジョウバエ気管形成 ②
(学)梅宮 猛	国立基礎生物学研究所 行動制御部門	〒444 岡崎市明大寺町字 西郷中38	①神経発生学 ②ショウジョウバエ
(学)内川昌則	大阪大学細胞生体工学 センター	〒565 吹田市山田丘1-3	①J-クリスタリン遺伝子の水晶 体特異的な発現に関するSox 遺伝子群の解析 ②ニワトリ
(学)大塚正人	名古屋大学生物分子応 答研究センター純系動 物開発分野	〒464-01 名古屋市千種区 不老町	①メダカ遺伝子地図の作成 ②メダカ、 <i>Oryzias latipes</i>
(学)皆川将信	東京理科大学	〒278 野田市山崎2641	①中枢神経系株細胞の確立 ②ハツカネズミの細胞
(学)西口麻里子	東京理科大学基礎工学 部生物工学科友岡研究 室	〒278 野田市山崎2641	①中枢神経系株細胞の確立 ②ハツカネズミ、ハツカネズミ の細胞
(学)杉本貴司	東京理科大学基礎工学 部生物工学科友岡研究 室	〒278 野田市山崎2641	①中枢神経系株細胞の確立 ②ハツカネズミ、ハツカネズミ の細胞

(学)田原浩昭	国立遺伝学研究所遺伝子ライブラリー研究室	〒411	三島市谷田1111	①動物の胚発生における母性遺伝子の役割 ② <i>C. elegans</i>
(学)南 相允	東京大学農学部獣医解剖学教室	〒113	文京区弥生1-1-1	①哺乳類の精子発生 ②マウス (Mouse)、Rat
(学)東郷 建	東京大学理学部附属臨海実験所	〒238-02	三浦市三崎町小網代1024	①多精拒否機構 ②海産二枚貝
(学)清水英樹	筑波大学生物科学系	〒305	つくば市天王台1-1-1	①細胞性粘菌の受精機構 ②細胞性粘菌、 <i>Dictyoslelium discoideum</i>
(学)飯島美帆	筑波大学生物科学系	〒305	つくば市天王台1-1-1	①細胞性粘菌を用いた有性生殖の遺伝子支配に関する研究 ②細胞性粘菌
(学)伊勢直人	福山大学大学院	〒729-02	福山市学園町一番地三蔵	① <i>C. elegans</i> 生殖細胞の分化解析 ② <i>C. elegans</i>
(学)松尾隆嗣	三菱化学生命科学研究所	〒194	町田市南大谷11	①細胞の分化 ② <i>Drosophila</i>
(学)高橋邦明	三菱化学生命科学研究所	〒194	町田市南大谷11	①シヨウジョウバエ複眼形成過程に関する遺伝子 <i>canoe</i> の機能解析 ②シヨウジョウバエ
(学)鈴木和美	三菱化学生命科学研究所	〒194	町田市南大谷11	①シヨウジョウバエの神経発生 ②キイロシヨウジョウバエ
(学)安光和広	山口大学理学部自然情報科学科	〒753	山口市大字吉田1677-1	①両生類受精卵における卵内微小管構造の研究 ② <i>Cynops phyrhogaster</i> 、 <i>Xenopus laevis</i>
(学)坂本伊知郎	山口大学理学部自然情報科学科	〒753	山口市大字吉田1677-1	①両生類などの初期発生におけるMPF活性化のメカニズム ②アフリカツメガエル、アカハライモリ
(学)岩田博司	北海道大学薬学部生体機能化学講座	〒060	札幌市北区北12西6	①神経系の再生機構 ②アフリカツメガエル (<i>Xenopus laevis</i>)
(学)伊藤真由美	名古屋大学理学部分子生物学科	〒464-01	名古屋市千種区不老町	①セキツイ動物の再生現象 ②イモリ (<i>Cynops phyrhogaster</i>)
(学)楊 仙玉	筑波大学生物科学研究科	〒305	つくば市天王台1-1-1	①ゾウリムシ (<i>Paramecium caudatum</i>) ②
(学)石井 衛	広島大学・理学部・遺伝子科学専攻遺伝子発現機構学講座	〒739	東広島市鏡山1-3-1	①バフンウニ (<i>Hemicentrotus pulcherrimus</i>) ②

<住所・所属変更>

<住所変更>

- 日下部岳広 北海道大学大学院理学研究科生物科学教室 〒060 札幌市北区北10条西8丁目
- 深山 昭一 Dept. of Molecular & Cellular Toxicology, Harvard School of Public Health (Adr: 665 Huntington Ave., Boston, MA 02115, U.S.A.)
- 小合 宗一 新技術事業団土居バイオアシンメトリ 〒261-71 千葉市美浜区中瀬2-6
プロジェクト事務所 WBGマリブイースト12F
- 梶原 裕二 京都教育大学理学科生物学教室 〒612 京都市伏見区深草藤森町1
- 藤森 一浩 福井医科大学解剖学第1講座 〒910-11 福井県吉田郡松岡町下合月23
- 内山 孝司 北里大学理学部生物科学科分子発生学研究室 〒228 相模原市北里1-15-1
- 磯田 和良 基礎生物学研究所細胞器官培養室 〒444 岡崎市明大寺町西郷中38
- (学)高井裕之 基礎生物学研究所アイソトープ実験施設 〒444 岡崎市明大寺町西郷中38
- (学)重谷安代 東北大学加齢医学研究所分子神経研究分野 〒980-77 仙台市青葉区星陵町4-1

<退会者>

長崎紘明、松本政美

〔賛助会員〕

- 研究者のニーズにハートで応える(株)池田理化 〒101 千代田区鍛冶町1-8-6神田KSビル
TEL 03-5256-1051
- (有)共進理工 〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205
TEL 03-3813-1073
- 生物学・生態学洋書のことならグリーン洋書(株) 〒210 川崎市幸区塚越2-260
TEL 044-533-0470
- 生命誌研究館 〒569 高槻市紫町1-1
TEL 0726-81-9750
- 先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株) 〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル
TEL 03-3814-2066
- 三菱化学生命科学研究所 〒194 町田市南大谷11
TEL 0427-24-6226
- 明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所 〒250 小田原市成田540
TEL 0465-37-3661
- 試薬及び理化学機器販売の理科研(株) 〒463 名古屋守山区元郷2-107
TEL 052-798-6151
- 次代を担うバイオテクノロジー和研業(株) 〒606 京都市左京区北白川西伊織町25
TEL 075-7212-0491

賛助会員へのご入会のお願い

日本発発生物学会
会長 岡田 益吉

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発発生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,200名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発発生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発発生物学会事務局

〒153 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科生命環境系(生物)

日本発発生物学会

TEL(03)5454-6632(直通) FAX(03)3485-2904

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発発生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所	
会 社 名	Ⓜ
担当者名	
電話番号	

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,200人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

	広	告	料
DGD 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	30,000円
サーキュラー	半 頁	〃	15,000円

申し込み先：日本発生生物学会事務局

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科生命環境系(生物)

日本発生生物学会

TEL(03)5454-6632(直通) FAX(03)3485-2904

----- 切 り 取 り 線 -----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

<input type="checkbox"/>	DGD 本誌	1 頁
<input type="checkbox"/>	〃	半 頁
<input type="checkbox"/>	サーキュラー	1 頁
<input type="checkbox"/>	〃	半 頁
住 所		
会 社 名		
担当者名		
電話番号		

マウスのテラトーマ

森脇和郎／序

野口武彦 村松 喬／編集

—EC細胞による哺乳動物の実験発生学—

定価 3914 円(税込)A5判・296頁・並製

テラトーマの生物学的な知識、EC細胞の種類と成立、EC細胞を用いた初期胚の細胞生物学・分子生物学的研究、EC細胞のキメラ動物への応用などについて、研究の進展を紹介し、その理論と実験技術を解説してあります。

哺乳動物の初期発生

妹尾左知丸 加藤淑裕 入谷 明

鈴木秋悦 館 輝／編集

—基礎理論と実験法—

定価 15450 円(税込)B5判・480頁・上製

初期発生の基礎理論をはじめに説明し、ついで初期胚を研究対象とする主要な実験研究法を解説してあります。生命現象研究へ大きな手がかりとなる本書は、医学・生物学・農学・薬学を専攻する研究者の必携の書です。

体細胞遺伝学

山根 績 岡田善雄 堀川正克 黒木登志夫／編集

定価 10094 円(税込)A5判・720頁・上製

HVJによる細胞融合法、薬物や放射線、化学物質を用いた細胞の突然変異による研究、あるいは遺伝子組換え法を使った研究等体細胞遺伝学研究の最前線をまとめたモノグラフィー。医学・生物学・農学・薬学研究に絶好の参考書です。

理工学社

東京都文京区本駒込5-9-10 電話 03(3828)5211(代) 振替口座番号 東京1-34676 〒113

* 遺伝子工学研究材料 *

アフリカツメガエル

良質実験用アフリカツメガエルの
確実供給に努めております。

■出荷単位

スタンダード(黒)……………10匹単位

新発売

管理ガエル

1994年12月上旬販売開始!!

- ◆ご注文はFAXにてお願い申し上げます。
- ◆お気軽にご相談、お問い合わせ下さい。
- ◆留守番TELの場合、ポケットベルをご利用下さい。



●養殖・販売

鴨川生物教材

代表／鎌田泰雄

〒296-01 千葉県鴨川市北小町1626

TEL・FAX 04709(7)1370

ポケットベル 043(470)9943



The Company of Biologists Ltd.

発生学・生理学関連雑誌ご案内

Development

Editor-in-Chief : Chris Wylie

1987年より Journal of Embryology and Experimental Morphology から誌名変更した本誌は、発生学分野の代表的ジャーナルです。出版のスピードと質の高さは群を抜いており、カラーページの美しさ、投稿者へのページチャージがないこと、また同誌掲載の論文全てにつきそれぞれ200部の抜き刷りを無料で提供すること、なども特徴となっています。本誌は、植物と動物の発生メカニズムを解明する研究のためのフォーラムです。

▶ SCI® Journal Citation Reports® '94 Impact Factor : 8.064 (Developmental Biology 分野 23誌中第2位)

RECENT CONTENTS

- Spana, E. P., Kopczynski, C., Goodman, C. S. and Doe, C. Q.
Asymmetric localization of numb autonomously determines sibling neuron identity in the Drosophila CNS
- Jaglarz, M. K. and Howard, K. R.
The active migration of Drosophila primordial germ cells
- Vodicka, M. A. and Gerhart, J. C.
Blastomere derivation and domains of gene expression in the Spemann Organizer of Xenopus laevis
- Treisman, J. E. and Rubin, G. M.
wingless inhibits morphogenetic furrow movement in the Drosophila eye disc
- Haegel, H., Larue, L., Ohsugi, M., Fedorov, L., Herrenknecht, K. and Kemler, R.
Lack of β -catenin affects mouse development at gastrulation

▶ 年間購読概価 : ¥154,000 ▶ 1996年巻号 : Vol. 122 (12 issues) ▶ 商品コード : D13585V

～ 分子・細胞・発生生物学の
ニュースとレビュー ～

BioEssays

Editor : Adam S. Wilkins

権威ある ICSU (International Council of Scientific Union) の機関誌として創刊された本誌は、現代生物学の中心的領域である分子細胞生物学を対象分野とし、遺伝子発現や細胞構造から、分子医学や発生調節までのトピックスを扱います。基礎研究の進展状況に主眼をおきますが、医学、産業、農業への応用研究にも十分な配慮を加えています。特にこれらの分野で既に研究を進行・計画中の機関にとって本誌は興味深い文献となるでしょう。生物学研究において不確かで、争点となっている問題を取りあげ、著名専門家の見解を提供すると共に、活発な意見交換の場となることが本誌の目的です。

▶ SCI® Journal Citation Reports® '94 Impact Factor : 6.017
(Biochemistry & Molecular Biology 分野 193誌中第22位、Biology 分野 57誌中第2位)

▶ 年間購読概価 : ¥45,400 ▶ 1996年巻号 : Vol. 18 (12 issues) ▶ 商品コード : B14170A

- 販売価格は、実勢レートをもとに算出し、概算価格にて表示しております。最新価格につきましては改めてご照会ください。なお、消費税は別途申し受けます。
- ご購読、見本誌のお申し込み、その他のお問い合わせは、最寄りの紀伊國屋書店営業所にお申し付け下さるか、雑誌部 マーケティング課宛にハガキまたはFAXにてご連絡下さい。

日本販売総代理店

株式会社 紀伊國屋書店
雑誌部 マーケティング課

〒156
東京都世田谷区桜丘5-38-1
Fax. 03-3439-1094

AQUA

1. 業務内容

設計・監理・施工業務

- ・水族館、水産試験場、大学、研究所、臨海実験所、栽培漁業センターなど水生の生物に係わりを持つ施設の建物および建物附属設備の企画、設計、監理および施工。
- ・建物および建物附属設備の設計、監理および施工。
- ・水生生物飼育用環境調節設備の設計、監理および施工。
- ・動植物用環境制御設備の設計、監理および施工。
- ・その他一般空調設備、給排水設備、衛生設備および電気設備などの設計、監理および施工。

機器開発、製作、販売業務

- ・生物の環境制御に必要な各種機器の開発、設計、製作および販売。
- ・スイミングプール用各種機器の開発、設計、製作および販売。

2. 機器及び装置

加熱冷却関連機器

加熱ユニット/冷却ユニット/加熱冷却ユニット/チタンヒーター/チタン製プレート式、投込式、プレート式熱交換器

測定記録制御機器

温度調節器/測温体/pH, DO, 塩分濃度制御装置/圧力調整器/水質測定器

恒温、定温器、温度勾配装置

低温恒温循環水槽/恒温循環水槽/階温飼育槽/温度勾配装置/超小型インキュベーター/超小型電子式五連恒温槽/セットコンデンサー/恒温コンテナ/恒温ボックス/ポータブルインキュベーター

無菌、殺菌、ろ過装置

海水用流水殺菌装置/オゾン紫外線流水殺菌装置/流水式加熱滅菌装置/無菌ろ過器/本城式プランクトン濃縮装置/脱塩素装置/活性炭フィルター/自動砂洗浄ふるい機

環境調節装置、恒温室

マルチハイデンス装置/水生生物環境調節装置/ヤリイカ飼育水槽/加熱冷却ろ過循環ユニット/水平垂直温度勾配反応試験装置/魚介類飼育用加圧水槽/潮汐水槽/溪流のぞき水槽/回流水槽/加圧式インキュベーター/魚介類呼吸量測定装置/塩分濃度調節装置/藻類培養装置/海草育成器/魚類選好忌避温度試験装置/活魚輸送車/タイドプール/低温生物飼育培養室/恒温室/プレハブ冷蔵庫/動物飼育室/木村式多段式ふ化槽

飼育用品、医薬品

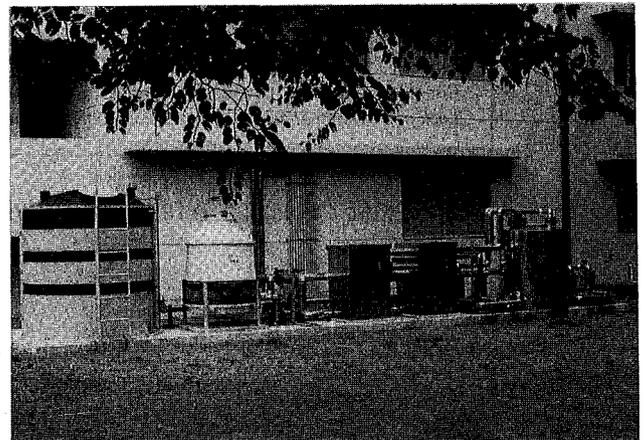
ガラス、アクリル、FRP、ポリカーボネート等各種水槽/フィルター/水ポンプ/空気ポンプ/エアストーン/酸素分散器/エアコック/ジョイント/照明装置/自動ライトコントローラ/砂、砂利、大磯砂、珊瑚砂、天然ゼオライト等ろ材/人工海水/動物用(鑑賞魚用)医薬品/温度計/比重計/ビニールホース/網

プール用品

照明用、観察用水中窓/水中照明装置/水門



▲福山大学マリンバイオセンター 大型飼育水槽 150m³

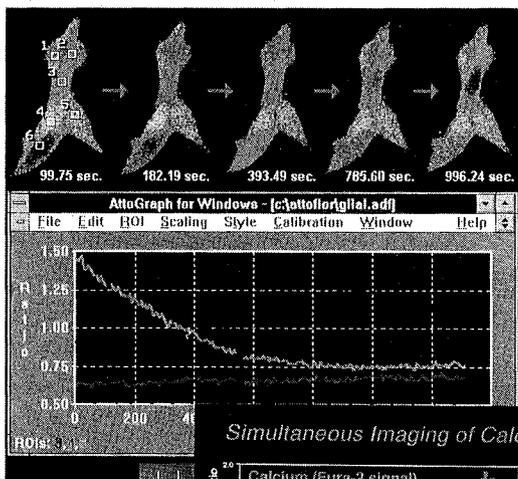
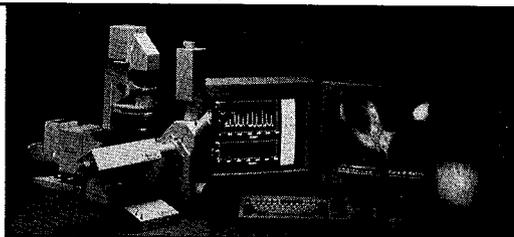


▲連洋水産研究所 恒温生物飼育実験室用屋外冷却設備



▲東京都立大学 水棲生物飼育施設内のマルチハイデンス装置

細胞内イオンを 最高の時間分解能で測定

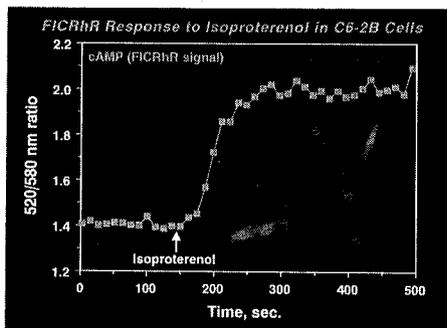
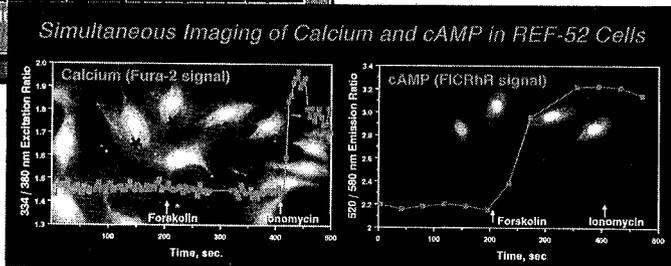


多重蛍光顕微鏡解析装置 Attofluor® RatioVision®

Ca²⁺、pH、Na⁺等の細胞内イオンやセカンドメッセンジャーcyclicAMPの活動をおどろくほど明瞭に、かつ抜群の時間分解能で測定し、多彩に解析することができる、まったく新しいデジタル蛍光比画像解析装置です。

●ソフトウェア RationVision®

汎用性の高いWindows™の環境下で動作するため、シングル蛍光プローブによるさまざまな測定から、たとえばCa²⁺とpHやCa²⁺とcyclicAMPといった2つの蛍光プローブを用いた測定まで簡単な操作で行うことができます。



●高速蛍光励起光源 RatioArc®

2つのアークランプを完全に電気的な方法により瞬間的に切り換えて交互に点灯する、蛍光比画像の高速取り込みのための新しい光源装置です。機械的な可動部がないため振動は一切ありません。切り換え速度は最高5kHz。ビデオレートをフルに使って秒間30個の高画質な蛍光比画像を得ることができます。



ドイツ ツァイスグループ
カールツァイス株式会社 顕微鏡部
 〒160 東京都新宿区本塩町22番地
 ☎03-3355-0332 Fax.03-3358-7554
 大阪☎06-282-4322 名古屋☎052-777-1411
 福岡☎092-713-7821 仙台☎022-224-5621

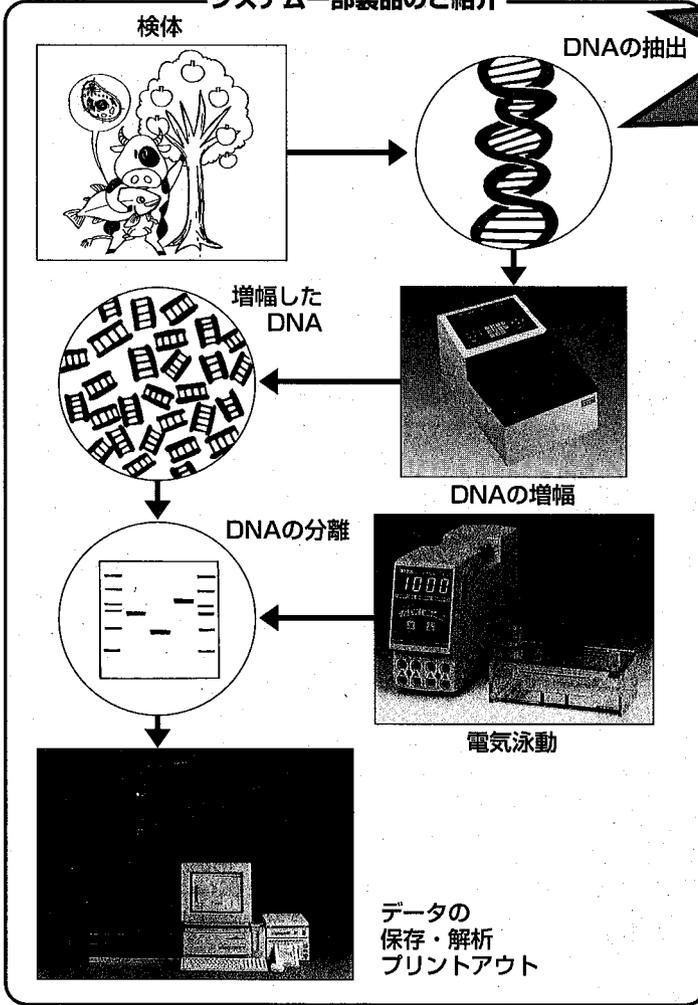
* :はAtto Instruments, Inc.の登録商標です。
 ** :はMicrosoft社の登録商標です。

アトーの遺伝子診断システム

癌、変異遺伝子の検出
 家畜感染症、雌雄判定
 個体種別・鑑定
 食品微生物、環境微生物の検出
 あらゆる分野におけるDNA、RNAの研究に!

DNA増幅装置～電気泳動装置、ゲル乾燥処理装置、データ検出・保存・解析に至るまで完全システムをご用意できるのはアトーだけです。

システム一部製品のご紹介



遺伝子診断システムはアトーにおまかせください!

AB-1820型
 DNA増幅装置
 「ザイモリアクターⅡ」
 ¥780,000

AE-6100型
 電気泳動装置
 「サブマージ・アガロース」
 ¥30,000

AE-8450型
 電気泳動用電源
 「パワーステーション1000VC」
 ¥150,000

AE-6920-MF型
 データ保存・解析装置
 「デントグラフ」
 ¥4,500,000

詳細カタログ・資料の用意がございます。弊社営業部機器営業課までお問合せ下さい。

ライフサイエンス/バイオテクノロジー 研究開発の情報誌

THE FRONTIER ELECTROPHORESIS

電気泳動 最前線®

THE FRONTIER CHROMATOGRAPHY

クロマトグラフィー 最前線®

ATTOでは「ライフサイエンス/バイオテクノロジー 研究開発の情報誌」を発行しております。ご希望の方は弊社までご請求下さい。



ライフサイエンス/バイオテクノロジー
 研究開発を支援する

アトー株式会社

□本社 〒113 東京都文京区本郷7-2-3 ☎(03)3814-4861(代表)
 □大阪支店 〒530 大阪市北区南森町2-1-7 ☎(06)385-7121(代表)

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technology に基づく細胞染色法で、細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26 蛍光色素と希釈液とを組み合わせた、細胞蛍光標識キットです。

細胞機能に影響しません

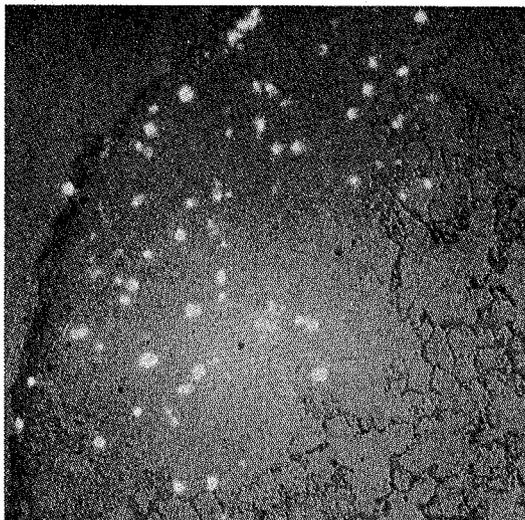
細胞と数分間混合するだけで、生細胞をその機能を損うことなく染色可能で、細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します。

簡便です

従来 ^{51}Cr 等を用いて行われていた LAK 細胞のモニタリングや NK 活性の測定が簡便に、しかも安全に行うことができます。

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合、PKH26 では *in vivo* でその溶出の半減期が100日以上を示し、長期のモニタリングが可能です。



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.

マウス肺癌組織に浸潤している、PKH26で染色した IL-2 処理リンパ球が観察されます。

Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元

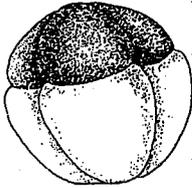


大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164(代表)
東京 (03) 3828-6544(代表)

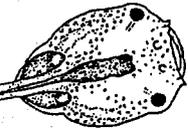
動物発生段階図譜

石原勝敏編著 / B5判・360頁・定価18,540円(税込)



- ◆海綿動物から哺乳類・ヒトまで34種の動物について、発生の段階・順序をわかりやすく写實的に図示した。
- ◆各動物について、入手法、飼育法、発生観察の要点などを概説し、実際の実験に役立つようにした。
- ◆主として発生実験に取り入れやすい動物種または発生研究に重要な種を取りあげた。
- ◆本書に記載されていない動物種の発生研究にも役立つよう、あるいは比較できるよう用語の統一解説などに配慮した。
- ◆実際に動物の発生を取り扱っている現場の先生方により、研究の上での注意点、工夫なども交えて解説した。

【目次】 カイメン / エヒドラ / ミズクラゲ / 海産ウズムシ / 淡水プランナリア / ゴカイ / アルテミア / チシマフジツボ / クルマエビ / ガザミ / カブトガニ / ウツキコモリグモ / ハグロトンボ / カイコガ / ヒシモンユスリカ / マガキ / エゾアワビ / シリヤケイカ / ヒメテンコケムシ / シマミズウドング / ヒトデ / ウニ / 群体ホヤ / 単体ホヤ / タダカ / ニジマス / ウナギ / サンショウウオ / アカハライモリ / アフリカツメガエル / トウキョウダルマガエル / ニワトリ / ハツカネズミ / ヒト



〒112 東京都文京区小日向4-6-19

共立出版

☎03(3947)2511/振替00110-2-57035

Amenience のヤマト科学



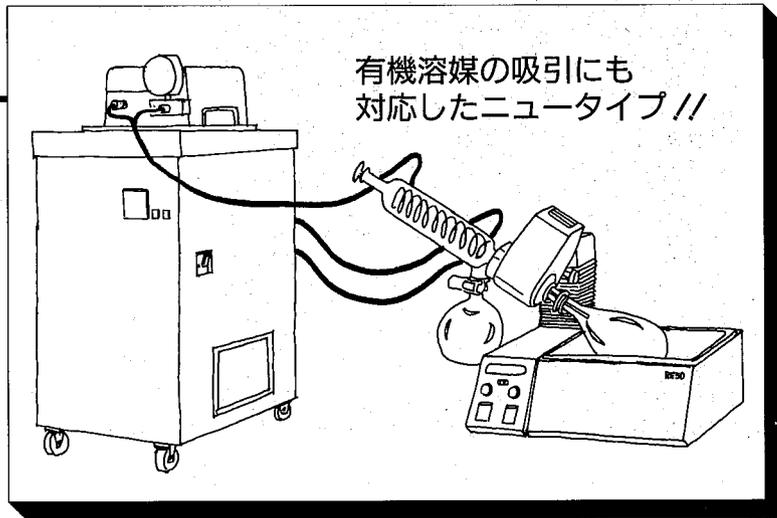
新排水基準対応形——ネオクールアスピレーター

CF 600P 型

- 減圧と冷却を同時に行うCF600P型は、ジクロロメタン、ベンゼン等の流出を低く抑えており、ロータリーエバポレーターの減圧装置として排水基準をクリアできます。
- 1台で2台のロータリーエバポレーターに接続できます。
- 真空調節器(標準外)の使用により吸引条件を制御できロータリーエバポレーターの回収フラスコへの回収率がアップします。
- 特定フロン対応冷凍機を搭載しています。

■主な仕様

使用温度範囲 -10~+30℃
温度調節器 デジタル温度調節器
外形寸法 幅364×奥行494×高さ1,007mm

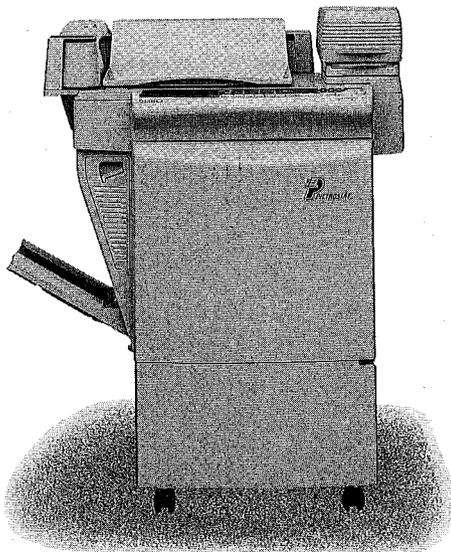


有機溶媒の吸引にも
対応したニュータイプ!!

ヤマト科学 株式会社

本社：〒103 東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号
TEL (03) 3231-1132

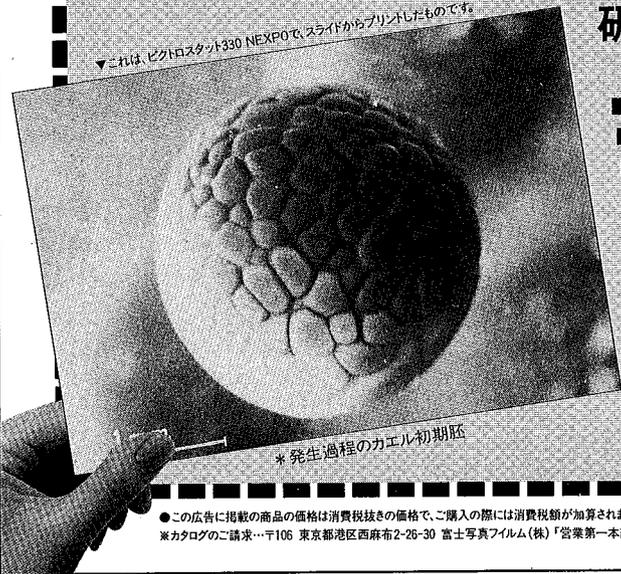
発生現象の記録、
自信あります。



※写真はオプション(SE2001・PF300-A4)装着。

これは、スライドからも、標本などの実物からも、写真が撮れるシステムです。
約1分で、微妙な色やディテールまで忠実に再現。正確な記録が求められる
研究分野に、ピクトロスタット330 NEXPO。

▼これは、ピクトロスタット330 NEXPOで、スライドからプリントしたものです。



※発生過程のカエル初期胚

- 写真、印刷物、立体物から約1分でプリント。
- 別売りオプション装着で、スライドやプレパラートからもプリント。
- 仕上がりサイズは使用頻度の高いA4(210×297mm)・A5(148.5×210mm)。
- フルカラーのOHPシートもすばやく作成。
- 置く場所を取らない設置面積約0.3㎡の省スペース設計。
- 現像液もインクもトナーも不要で、メンテナンスが簡単。

フジカラー インスタントプリント システム
PICTROSTAT 330
NE×PO

標準ユーザー渡し価格(消費税別)
本体価格
1,500,000円

レターサイズのプリント仕
上げのピクトロスタット50
NEXPOもあります。

